品川区立台場小学校・幼稚園　　令和８年１０月１４日（水）
台場の灯（ともしび）（校園長通信）No. ２０　校・園長　滝渕　正史

PTA 常任委員会に参加して



（写真は体育発表会、PTA 会長から記念品をいただきました）

10月2日（金）に、台場小学校 PTA の常任委員会があり、校長として（前半の部分だけでしたが）出席させていただきました。

PTA 活動は、時代の変遷とともに、常勤でお仕事をされていらっしゃる保護者の方が当たり前になるにつれ、以前のような活動が実施できなくなっています。現に、この常任委員会の「本日の目的」の中に、「来年度以降も無理なく継続でき、保護者・学校双方にとって分かりやすく、子どもたちにとっても意義のある PTA 活動を目指して～」と書かれています。

役員のみなさんに伺っても、「義務」的に取り組むような、今まで毎年あった役割のなり手（希望者）が年々少なくなり、同じような進め方では、「役割の押し付け合い」のような形になってしまいかねないと、ここ数年の間に、そのありようを大きく変容させているという話でした。

では、義務的にやらなければならない役割がなくなったら、PTA 活動は円滑に進むのかというと、実はそうとも言い切れない課題も生じているという話も伺いました。例えば、何かのボランティアを募集しても、思ったように集まっていただけないというような状況がそれにあたります。それは、考えてみれば、ある意味当然のことかもしれません。PTA 活動に参加する機会が減れば、それだけ実感として、実際に PTA 活動に対する距離感は遠くなる可能性があるでしょう。

お子さんの様子を見ていただく機会としての学校行事は、体育発表会（上写真）や学習発表会、他には授業参観（学校公開）など、結構限られた場面しかありません。例えば、保護者の方ご自身が、「台場小学校（この地域）の出身で」という方であれば、いろいろな方々とつながりがあるでしょうが、大人になってから移り住んでいらっしゃった方などは、なかなか地域とのつながりがもちにくいのではないかと思います。（ちょっと余計な話かもしれませんが）お子さんの幼稚園や保育園、学校での保護者同士のつながりが、地域とのつながりの入り口のようなものなのかもしれないなと、勝手ながら感じています。

大人が、地域の中でつながりができていけば、それは子どもたちの地域とのつながりにも直結します。お祭りをはじめ、この地域は、地域の中でのつながりが、他の地域と比べても、かなり濃いという印象があります。これからの PTA 活動は、（もちろん子どものための活動ですが）そこに関わる保護者も一緒に楽しむものであるべきだろうと感じています。ねばならない役割をする場ではなく、例えば、一緒にイベントを盛り上げるなど、いろいろな保護者の方々とつながりながら、一緒に楽しむことが目指せたらよいのではないでしょうか。

来年度、台場小学校は、開校７０周年を迎えます。周年に向けては、PTA のみなさんを中心に、地域の方々と連携をしながら、みんなで学校の開校をお祝いする一つの機会となるとありがたいです。今後、PTA からいろいろとサポーター募集などのご案内が出ますので、どうぞ関心をお寄せいただき、一緒に盛り上げていただければありがたいです。